

簡易型WBG T測定器



早くもクールビズが始まったある5月の朝、本日最初の着信コールが鳴った。「はい、こちら企業の労働110番です」。電話の主は、ある建設業

(一社)名北労働基準協会
事業企画推進課長・RSTトレーナー 石田和彦

熱中症から仲間を守る

の安全担当課長さんでした。「昨年梅雨が明けた暑い日に、当社の工事現場でサイディングボード(外壁材)の仕分け作業をしていたA君が、座り込んだかと思っただけで、そのままぐったりと意識を失いました。すぐに救急車を呼び病院に搬送しましたが、熱中症と診断されました。3週間の休業となりました。今年はどういったことが起こらないように、事前に熱中症の対策を講じたいのですが、どうしたらいいでしょうか」とのご相談でした。

熱中症とは、暑熱環境下においての身体適応の障害によっておこる症状の総称で、屋内・屋外を問わず高温や多湿等が原因となって起こります。症状により「熱射病」(危険度大)、「熱疲労」(危険度中)、「熱けいれん」(危険度小)に分類され、愛知県内では熱射病で、過去10年間で13人、平成24年には1人が死亡しています。熱中症は、建設業や運



送業、駐車場の警備などの、屋外作業の職種にしか関係がないように思われがちですが、製造業、倉庫業さらにはデスクワークなどの屋内作業の人にも無縁ではなく、どの職種でもかかってくる疾病です。この熱中症には特有の症状がなく早期発見が困難なため、予防対策の実施が重要です。休憩は日陰等であり、水分補給に加えて塩飴やスポーツドリンク等による塩分補給が必要で、また、職場、工事現場の、熱中症のリスク予測をする指標として、『WBG T…湿球黒球温度(単位:℃)』があります。WBG Tは気温に加え、湿度、風速、輻射熱を考慮し、基本的な熱要素を総合したもので、簡単に状況が把握できる簡易型WBG T測定器(上部写真)の活用をお勧めします。

熱中症は、きちんと対策を講じること、確実に予防できる疾病です。特に、熱中症の防止には、現場管理者による作業管理と迅速な対応が不可欠であり、管理者に対する教育が鍵を握っているといっても過言ではありません。しかしながら、多くの企業で管理者に対する定期的な教育が、実施されていないのが現状です。

そこで当協会では、熱中症対策のキーマンである、各職場・各工事現場の管理者の方を対象とした『熱中症予防管理者研修』を開催します。「熱中症から仲間を守る」ためにも是非ご参加ください。詳細につきましては、本誌同封の案内をご覧ください。ただ、当協会総合受付(☎052-961-1666)までお問い合わせください。

イラスト・森沢康代